

習近平政権における 王岐山副主席の意味

岡田史学と王岐山

二〇一八年三月二十日に開幕した中国の全国人民代表大会で、一票の反対票もなく再選された習近平国家主席(党総書記)は、憲法改正により二〇二三年以降も主席でい続けることが可能になった。かつて毛沢東が終身主席の独裁者だったため、大躍進や文化大革命で何千万人も国民が餓死や迫害死をした。これに懲りた鄧小平は、個人の暴走を止めるために国家主席の任期を二期十年と定めて集団指導体制を取り、「社会主義市場経済」という造語を創りだして経済発展を

宮脇淳子

推し進めた。このおかげで中国は世界第二の経済大国になったのだが、習近平の一連の政策は、すべてにおいて、この「改革開放」の流れに逆行している。今回注目をあつめたのは国家副主席のポストで、国家主席と同じく再選制限規定を撤廃された副主席になったのが、習近平の右腕といわれる王岐山である。今後、「習・王体制」でさらなる強國をめざすわけだが、王岐山が副主席になった意味を書くようにと依頼されて、何という無茶ぶりだと私は思った。王岐山は確かに、私の亡き夫の岡田英弘の歴史観を高く評価した。二〇一五

年四月、中国共産党指導部の招待で北京を訪問した日系アメリカ人学者フランシス・フクヤマと青木昌彦両氏に、台湾で漢訳が刊行された岡田の著書『世界史の誕生』の内容について延々と論じ、「モンゴル史、ヨーロッパと中国の間の地域に対するミクロ的な調査が素晴らしい。民族言語学に対しても非常に深い技術と知識を持っており、とくに語根研究に長けている」「文明があるということは必ずしも歴史があるということではない。歴史と文明がともにあるのは世界上、地中海世界と中国だけだ、と岡田は言っている。などと話したそうだ。今でも、王岐山について語る際に岡田英弘の名前はときどき見受けられる。習近平の「一带一路」や「シルクロード経済ベルト」構想には、史学研究者であった王の影響があるともされる。

習への権力一極集中に加担

もともと歴史学者になりたかったという王岐山が、岡田史学がヨーロッパ中心の世界史を相対化してみせ、中国史の特殊性を発見し、日本建国をも外の視点から論じた点に惹かれたのは本当だろう。

しかしそのことが、王岐山の政治力を判断する材料になったり、日本への評価に影響を与えるとは、私には思えない。王岐山は、習近平への権力一極集中にもっとも貢献した腹心である。習の反腐敗キャンペーンのトップとして、大幹



▲王岐山氏 (1948-)
www.kremlin.ru

部だけでも数百名を取り調べて失脚させ、その辣腕は国民から拍手喝采されたが、暗殺未遂は四年間で二十七回と言われる。習近平の九回の暗殺未遂事件をはるかに超える数である。

国民の人氣が自分よりも王岐山にあると嫉妬した習が、王と疎遠になったという報道も一時はあったが、互いに必要な存在だから、二期目も組んだのだろう。

習近平は一期目で、次世代指導者となりそうなりリーダーはすべて失脚させたうえ、軍も百名の將軍と四千名の幹部を肅清し、地方幹部も大幅に入れ替えて、すべて自分に忠誠を誓う若い子分で固めた。国内の権力集中には成功したが、金融や外交など内外で問題は山積みである。

王岐山はSARS騒ぎの時には北京市長のリリーフに送り込まれ、「ミスター消防夫」とあだ名されたように、危機管

理に卓越したリーダーシップを発揮する。そのうえ国際金融の専門家であり、世界銀行やIMFにも人脈がある。習の周りではおそろくもつとも有能な人物だ。

王は六十九歳になり党の役職を引退したが、まったくのヒラになったら、身の安全も保障されないのが中国である。

国家副主席という地位は、かつて孫文夫人の宋慶齡も長くその任にあつたように名譽職にもなり得るから、習は安心だ。王岐山が岡田の研究成果を政治に利用するなら、日本人ではなく中国人が国際的な指導力を発揮する一助になったわけだが、岡田が責務を負う筋合いはない。

(みやわき・じゅんこ／東洋史)

岡田英弘著作集

全8巻

四六上製四三〇〜七〇〇頁 全巻揃四四一〇〇円